

個人懇談は子ども・保護者との相互理解を深めるチャンス

夏休みは、多くの学校で三者懇談や保護者との二者懇談が行われていることと思います。普段は、ほとんど個人的に話すことのない保護者との関係をつくるためにも、個人懇談は絶好の機会です。

不登校などの問題が起こってからでは、保護者と教師の双方に気持ちの余裕がなく、関係づくりは決して容易ではありません。このような機会を生かし、日ごろからお互いの信頼関係をしっかりと築いておきたいものです。

確かめておきたい個人懇談の意味 <すべての学年に共通すること>

子ども・保護者のことを知る機会

- ・ 集団場面（学級での様子、保護者会での様子など）とは別の一面が見られるかもしれません。
- ・ 三者懇談では、親子関係を垣間見ることにもなります。

子どもや保護者に、自分のことを知ってもらう機会

- ・ この子のことを、どのように考えている自分であるかを伝えることのできるチャンスです。

保護者に、子どもの学校での様子を知らせる機会

教師にとって

子ども・保護者にとって

教師に、自分のことを知ってもらう機会

- ・ 子どもや保護者にとって、言いたいことがうまく伝えられるよう、先生に分かってもらえたと感じられるように聴く態度が大切です。

教師のことを知る機会

- ・ 先生が自分(わが子)に対して、どういう受け止めをしているのか、また、先生ってどんな人なのか、強い関心を寄せています。

保護者にとっては、わが子の学校での様子を知る機会

- ・ 2学期制の今、通知票の所見欄に相当するものといえます。

懇談で話題にしたいこと（Q-Uの結果をもとに）

「やる気のある学校生活を送るためのアンケート（学校生活意欲尺度）」の結果のうち、高い領域については意欲の高さを認め、低い領域については今後どのようにしていくかを話題にします。

<ここに注意> 低い領域については、子どもに努力を求めるような話だけではかえって逆効果。そのことにつまずきを感じているということは、「このままではいけない」という思いと、教師に支援の手を差し伸べて欲しいという思いの現れでもあります。まずは困っているその子の気持ちを受け止める言葉かけと、教師自身も一緒に考えていくスタンスを示すことが大切です。保護者にも、わが子の応援団として温かく見守ってもらえるよう協力を求めます。

自由記述欄に書かれた中で、とくに心に留まった内容については話題にするのもよいでしょう。

教育センター相談室への紹介は、慎重にお願いします！

夏休み中は、個人懇談を受けて相談の新規申し込みが大変多くなりますが、保護者の中には、「先生に強く言われたから断るわけにもいかに」と渋々申し込む方もいます。相談への動機付け低いと、結果的にうまくつながらなかったり、学校とセンターとの連携がうまくいかなかったりしがちです。学校場面での子どもの姿と改善を図りたい点などについて、保護者と共通の認識を持つとともに、保護者の心情や様々な事情に十分配慮した上で話題にされるようお願いいたします。